

第 5 号

発行所

大阪市史跡 龍溪禪師墓所

霊亀山 九島 禅院

〒550 大阪市西区本田 3丁目4-18

☎06-582-5772

発行人

住 職 奥 田 啓 知 (智證)

アラブの二枚舌？

人事をつくせば 天命待てない日本人

戦争回避の努力もむなしく、とうとうイラク軍対多国籍軍との戦争が始まりました。当初、早期で終戦といわれた湾岸戦争も、泥沼化が懸念されています。多国籍軍とイラク軍との攻防は地上戦を前にして、原油流出作戦、毒ガスなど化学兵器使用の可能性など、予想さえ及ばない事態が心配されています。

アラブの人達の考え方の基本はイスラム教ののっとっています。聖戦、アラブの大義など日本人にとって理解しにくいのはなぜか、イスラム教の教えを通して、日本人を考えてみたいと思います。

イスラム教徒の慣用語に『イン・シャー・アッラー』があります。イスラム教徒は未来のことを約束した場合、必ずと言ってよいほど、この言葉を使います。「もし神が欲し給うならば」を意味する言葉ですが、これはイスラム教の教典『コーラン』

(18章23、24節)にこの掟が明示されているからです。すなわち「なにごとくも『私は明日それをする』などと言ってはならぬ。ただし、『神の御意(みこころ)ならば』と言い足せばよい」とあります。

たとえば、イスラム教徒と翌日の約束をするといいます。朝の八時に迎えに来い、と言います。すると相手は、「わかった、八時に来る。イン・シャー・アッラー」と答えるのです。そしてその約束が守られなくて、相手を責めると、彼は「イン・シャー・アッラー」と応じてくるのです。彼にすれば、神がここに八時に来ることを欲しておられないから遅れたというのです。要するに、日本人にすれば、この言葉は「どうなるかわからん」「保証できない」といった意味に使われているのですが、そう考えてはいけません。また、この「イン・シャー・アッラー」は、こういう言い訳・

弁解の時だけに使われるものではありません。約束がちゃんと守れたときも、彼らは神のおかげと感謝しているのです。このように、神に対する絶対帰依がイスラム教徒の基本的態度なのです。

『イン・シャー・アッラー』に近い言葉に、日本人の好きな『人事を尽くして天命を待つ』という格言があります。

「人間はやるべきことをやって人事を尽くせばあとは天命(人間の意思を超えたところで、人間の意思とは無関係なもの)を待たねばならない」という意味ですが、本音としては日本人は「天命」などをともとも信じていないように思えます。

われわれ日本人は一生懸命努力をすればするほど、その努力が報われなければ成らぬと考えているのです。一生懸命努力を



●参詣者の皆様にお願ひします

昨年末、葺き替え工事に「参詣者の皆様にお願ひ」と題する看板(左記参照)を建てました。

当九島院は、ご承知のように、九条島開発と同時に法灯をともしより三百二十年間郷土の浮沈と共に生きつづけてきました。しかし、残念ながら、先の戦災で堂宇全て灰塵に帰してしまいました。檀信徒の皆様方のご援助で

ようやく再建できました本堂も老朽化がはげしく、少々の修理では事足らず、屋根瓦の葺き替え工事を早急に始めなければならなくなりました。今般、不肖、本堂屋根瓦の葺き替え工事に引き続き、焼失した客殿等を再建し、当院を昔日の姿に復興する願を立てました。そして、輪奐の美を復した暁に、小納の晋山式を挙行したく存じます。

葺き替え工事・客殿等の再建には相当の資金が掛かります。檀信徒の皆様のご賛同、ご法援がなければ、計画実現は不可能です。後日、総代会に於いてご相談し、復興計画がまとまり次第、あらためてご喜捨のお願ひに何う所存でおります。

●観音写経―納経のおすすぬ
二月三日現在、百五十二巻(納経料 三十二万二千元)のご奉納があります。三月二十三日の落慶入佛法要まで、まだ、日にちがあります。観音像勸請建立という滅多にない機会です。是非、ご奉納されることをおすすぬします。

参詣者の皆様にお願ひ

当九島院は、寛永十年(一六七〇)創建され、後水尾法皇の帝師龍溪禅師の入寂の地で、法皇御念持の準胝観世音菩薩像を始め同法皇の御尊牌を安置し、菊花御紋章使用の公許された当地の名刹です。昭和四十五年には大阪市顕彰史蹟にも指定されています。栄枯盛衰は世のならい、先の戦災で大阪大空襲の際、本堂を始め庫裏・客殿等全て灰塵に帰してしまいました。昭和二十五年に檀信徒の皆様方の御力添えをもちまして本堂を再建、昭和三十九年には山門も復元落慶致しました。しかしながら、すでに四十年を経過しその老朽化に伴い、特に本堂屋根瓦は破損状態も著しく、早急に葺き替え工事をしなければならなくなりました。

このたび、檀信徒御一同様ならびに、有縁無縁の皆様のご支援とご協力を賜り、本堂の修復ならびに焼失した客殿等の再建を計画いたしております。つきましては、御参詣の皆様へ、御先祖様への報恩供養の善根をお積みになるお気持ちで御志納金を頂いております。屋根瓦一枚(金参千円也)なりとも御協力、御喜捨を伏して懇願申し上げます。

尚、御寄進の方は当院庫裏にて受付しておりますのでお申し出下さい。

平成二年十二月吉祥日

合 掌
山主敬白

九島禅院

したのに失敗に終わると、それも天命だとは考えないで、どこかおかしいと考えてしまうのです。口先では「人事を尽くして天命を待つ」と言いながら、天命を待つのは怠惰な証拠で、最後の最後まで天命を変えようという人事を尽くさねばならないところですが、イスラム教徒は、われわれ人間の力だけでは何事もできないことを知っているのです。日本人はそれと反対で、

人間は努力すれば何でもできると思っています。でも、天命とか神の意思といったものは人事（人間の努力）と無関係なものです。努力しようがしまいが、天命・神の意思は変わりませんが、神の意思は変わりますが、神の意思にすべてをゆだねる、それらへの絶対帰依こそが、宗教の本質ではないでしょうか。日本人には、そのところが判っていないのです。

なんでも質問箱

（問い）不幸、災難が続くのは先祖のたたりか

（答え）不幸など災いが続くのは先祖のたたりなどと言われると、ふだん仏法に触れる機会のない方ほど不安になるようですが、仏教では先祖のたたりなどは認めません。一体先祖の誰がたたりなのでしょう。あとを継いでくれる大事な子孫に、死んでなおたたる必要がどうしてあるのでしょうか。過去から現在へと不思議な縁で脈々と続く「いのち」のつながりに、もっと素直にならることが大切です。

（答え）不幸、災難が続くのは先祖のたたりか
 るために、高価な仏像や仏具の購入をすすめる方がありますが、それらの購入を機縁として信仰を深めようとするのなら結構なことですが、しかし、自分の不安を形の上だけで解決されるためなら意味はありません。たびたびの災いに「なぜ、うちばかり」と思われるかもしれないが、それが事実ならば、逃げないで事実を直視し、勇気をもってその苦を乗り越えていく覚悟が必要です。そして、よき結果をもたらずであるうよき原因を、あせらずに一つずつ積み重ねて下さい。先祖がたたりと不安になるよりも今の自分の存在に感謝できる先祖であると信じて下さい。



●大本山萬福寺開山忌団体参拝のご案内

前号でお知らせ致しましたが、来る四月三日（水）に京都宇治にある黄檗宗の大本山萬福寺に団体参拝を計画しております。詳細は左記の通りです。

記

- 一 日 時 四月三日（水）午前十時～午後一時
- 一 集合時刻 午前十時
- 一 集合場所 京阪電車宇治線・黄檗駅改札口
- 一 会 費 二千元（会費は当日集めます）
- 一 予 定 午前十時 山内拝観のあと開山忌参拝
 正 午 齋会（普茶料理）
 午後一時 解散

※三月十六日（土）までに、当院までお申し出下さい。申込み後、不参加の場合は出来るだけ早い目にご連絡下さい。

※京阪電車は、左記時刻表を参考に、出町柳行き急行にご乗車され、中書島で宇治行き普通電車に乗換して下さい。往復の交通費は自己負担です。

※もし遅れた場合は、直接萬福寺開山堂にお越し下さい

京阪電車時刻表

淀屋橋発（急行）	8時26分・32分・49分・9時04分
北 浜	8時27分・33分・51分・9時06分
中書島着	9時10分・20分・36分・9時51分
中書島発（普通）	9時13分・23分・46分・10時01分

●宗祖隠元禪師御生誕記念慶讃法要

先般、慶讃法要の浄財勸募金をお願い致しましたが、二月三日現在、百二十四家より二十一万三千四百円のご志納金が集まっています。厚く御礼申し上げます。

編集後記

▼新年早々着工した工事もようやく石材店担当の部分が無縁塚の撤去解体工事で、阿弥陀さんの頭部が出てきました。▼この仏頭の大きさを想像すると、今回勸請建立致します観音像とはほぼ同じ大きさの阿弥陀像であったようです。▼まるで阿弥陀さんが、観音さんに御姿を変えられ生まれ変わられたように思え、不思議な縁(えにし)を感じざるを得ません。▼阿弥陀さんの仏頭は、今回完成を見た無縁墓碑のための雑壇の中央に安置致しました。

●春の彼岸法要・息災延命観音像入佛開眼法要について

別紙ご案内状のように、春の彼岸法要を三月二十三日(土)午後一時より厳修致します。本年は息災延命観音像入佛開眼法要に引き続き、恒例の彼岸法要を厳修致します。

とても優しい御顔をされてお参り下さい。▼以前、先輩の和尚さんに聞いたことがあります。「どうしたらお寺をよくできますか」と和尚が云く、「御本尊様に一生懸命お仕えすれば、御本尊自信がお寺をよくされていくものだよ」▼そういえば住職就任いらい、朝課のお勤めで拝んでいる御本尊や後水尾法皇御念持の準胝観世音菩薩の御顔が変わって来られたように感じられます。



ご先祖の回向申込みをお願い致します。回向料は多少に係わらずご志納下されれば結構です。

●瓦志納

先述の本堂屋根瓦志納ですが、二月三日現在、十四万四千円のご志納がありました。

奉納抄

▷浄財寄進者△

- 金五拾万円 木村ユキ子殿
- 金拾万円 木村 仁志殿
- 金五万円 山本 勝子殿
- 金参万円 浜田 文夫殿
- 平松 蕃殿

他多数の寄進がありますが紙面の都合で割愛させていただきます。浄財は当院の為に有意義につかわせて頂きます厚くお礼申し上げます。

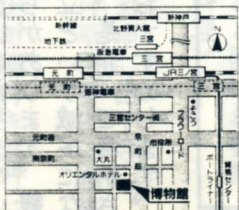
▷三宝奉納△

政所慶介殿より三宝がご奉納されました。厚くお礼申し上げます。

隠元禪師と黄檗宗の絵画展

特別展 隠元禪師生誕
四百年記念
○日 時：2月16日～
3月24日
○場 所：神戸市立博物館
○入場料800円

記念講演会
3月9日(土)14:00～地階ホール
大槻幹郎先生(高麗寺文学部研究員)
『江戸時代絵画と黄檗宗』



黄檗宗がもたらした明末の中国文化は鎖国下の日本文化に大きな影響を与えた。

3月23日(土)
午後1時開式

息災延命観音
入佛開眼法要

彼岸会法要

法話・住職

ご案内